

## 高齢者のてんかん

- ① 最近は高齢者（65才以上）になってはじめててんかんを発症することが多くなって来ている。（それをここでは「高齢者てんかん」としておく。）発症率は人口の2～7%で10才以下よりも発症頻度が高い。
- ② 高齢者てんかんの7割は、複雑部分発作（中でも側頭葉てんかん）であり、意識を失うかけいれんはなく転倒することはない。多くの発作は3～5分以内におさまりいつも同様の発作がおこる。
- ③ 複雑部分発作は高齢者での発症が多い、すべての年令でみられてんかん発作の中で最も多いタイプと言われる。
- ④ 突然意識を失って倒れるのは強直間代発作であり、「これはけいれん」を伴い救急車で運ばれるタイプのてんかんであるが、過剰な電気的興奮が大脳全体に及んだことを示している。
- ⑤ 高齢者では過剰な電流が止まても、側頭葉はすぐには回復できず発作後に意識障害（もうろう状態）が遷延することが多く、ふつうは3～5分、30分以内であるがもうろう状態が半日続くこともある。中には1週間以上にわたりけいれんを伴わない意識障害が遷延することもある。  
とくに認知症、脳卒中後、高齢者では遷延しやすい。  
(これは高齢者ではベースに脳機能の低下があるためと考えられる。)
- ⑥ てんかんの原因は1／3が原因不明の特発性てんかんであるが原因が分かっているでは、脳卒中（とくに脳出血）、頭部外傷、脳腫瘍の他変性疾患としての認知症がある。高齢というだけで脳の老化があるため、独立したてんかん危険因子であるが65才以上のアルツハイマー病ではそうでない人より、10倍てんかん発作リスクが高いと言われる。